世界史を受講する皆さんへ

みなさん，こんにちは。
村山秀太郎です。

世界史の受験勉強を登山に喩えるなら，このテキストの空欄を全て答えられるように(記述式の大学を志望するなら書けるように)なるのが登頂ということになります。

幸か不幸か，このテキストをゲットしたのですから，完全制覇を目標にしましょう。

ただし実際の登山と異なるのは，登頂しなくても，つまり100％覚えられなくても合格は可能であるということです。80％の暗記でもかなり有望です。

ただ，最初から80％を目指して暗記すると，60％しか覚えられません。

だから，100％を目指し覚えなさい。
八合目からの風景も綺麗ではありますが，頂上からの絶景と満足感，安心感には代えられません。

それから，このテキストは全国津々浦々，離島であろうが海外であろうが，簡単に入手可能であるということを忘れてはなりません。

他のサプリ生よりも少なく覚えたら，相対的に成績は下回るということになります。もはや，受験生の２人に１人がサプリ生の時代です。

選択式問題の意味不明の語句は，用語集で調べてください。

このテキスト登頂は，トップレベルをめざす世界史受験生にとってのノルマです。

健闘を祈ります。

あなたの熱烈サポーター
バロンドール - ムラヤマ⑩

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目　次

第26講　インド通史（ムガル朝以後）・カンボジア＆ユーゴ＆ルワンダ内戦・・・・・P4

第27講　ルネサンス・宗教改革・・・・・P22

第28講　ヨーロッパ主権国家の成立① 宗教戦争・・・・・P28

第29講　ヨーロッパ主権国家の成立② フランス・・・・・P32

第30講　ヨーロッパ主権国家の成立③ プロイセン・オーストリア・・・・・P35

第31講　ヨーロッパ主権国家の成立④ ロシア・・・・・P38

第32講　イギリスの革命・・・・・P42

第33講　産業革命・アメリカ独立革命・・・・・P48

第34講　フランス革命・・・・・P55

第35講　ナポレオン・ウィーン体制・・・・・P59

第36講　19世紀フランス史・イギリス史・・・・・P68

第37講　アイルランド史・イタリアとドイツの統一・・・・・P75

第38講　オスマン帝国・19世紀ロシア史・東方問題・・・・・P84

第39講　19世紀アメリカ合衆国史・・・・・P92

第40講　清末～中華民国・・・・・P99

第41講　第一次世界大戦への道・・・・・P104

第42講　第一次世界大戦とロシア革命・・・・・P110

第43講　第二次世界大戦への道・・・・・P115

第44講　ヨーロッパの第二次世界大戦・・・・・P121

第45講　冷戦（雪どけまで）
第46講　冷戦（雪どけ以降）・・・・・P126

第47講　中東現代史・・・・・P150

第48講　中東現代史・日米開戦までのアメリカ合衆国史・・・・・P164

第49講　東南アジア＆フランス近現代史・戦後アメリカ合衆国史・・・・・P173

第50講　朝鮮現代史・中国現代史・・・・・P187

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 26 講
インド通史（ムガル朝以後）・カンボジア＆ユーゴ＆ルワンダ内戦

1

【アフガニスタンのイスラーム王朝】初期イスラームのウマイヤ朝期からインドのイスラーム化は徐々に進行した。しかし本格化するのは**10 世紀のアフガニスタンのトルコ系イスラーム王朝**(1)〔　　〕朝のマフムードが北インドに遠征してから。つづく(2)〔　　〕朝はイラン系を自称するアフガニスタンのイスラーム王朝で，(3)〔　　〕朝を滅ぼし**ガンジス川流域までの北インドをイスラーム化し，仏像を破壊しインドにおける仏教の衰退を決定的なものとした。**この時期，北インドのヒンドゥー系ラージプート諸王朝は分裂抗争していた。

【デリー＝スルタン朝】インド初のイスラーム王朝は(4)〔　　〕を都とした(5)〔　　〕系の(6)〔　　〕。(7)〔　　〕年に(8)〔　　〕がつくった王朝でイクター制を導入した。これに始まるデリー＝スルタン朝はトルコ系の奴隷王朝→(9)〔　　〕→(10)〔　　〕((11)〔　　〕が滞在，ティムールに侵攻される）→(12)〔　　〕（ティムール系武将が建国）→(13)〔　　〕朝（唯一(14)〔　　〕）の５つ。(15)〔　　〕では異教徒に対する弾圧（だんあつ）はあまり見られなかった。イスラーム神秘主義の(16)〔　　〕が，神への絶対的帰依を唱えるヒンドゥー教の一派でインド在来の(17)〔　　〕（ラーマ信仰，クリシュナ信仰など）と類似性があり，ヒンドゥー教とイスラーム教が融合した。その融合をはかった(18)〔　　〕の影響を受けて(19)〔　　〕が創始したのが(20)〔　　〕で，**パンジャーブ地方のアムリットサルにシク教の総本山の黄金寺院**がある。

【ムガル帝国】ティムールの６代目の子孫(21)〔　　〕はウズベク族にサマルカンドを追われ，(22)〔　　〕を越えてインドに入りデリーの北の(23)〔　　〕の戦いで(24)〔　　〕朝を倒した。モンゴル帝国がなまってムガル帝国（(25)〔　　〕年～(26)〔　　〕年）と呼ぶ。公用語は(27)〔　　〕語。

第２代フマーユーンがスール朝に敗れ一時(28)〔　　〕朝に亡命する。ウズベク族という共通の敵がいたからかくまってもらった。第３代(29)〔　　〕は婚姻関係と(30)〔　　〕（人頭税）の廃止により融和（ゆうわ）した。ヒンドゥー教徒のラージプート族と融和した。(31)〔　　〕に遷都。官僚と軍人の位階（いかい）制度(32)〔　　〕で中央集権化を図った。第５代(33)〔　　〕は(34)〔　　〕に愛妃ムムターズ＝マハルを偲び(35)〔　　〕（**インド＝イスラーム建築**）を建立した。設計したのはイラン人。

解答

（１）ガズナ（ガズニー）　（２）ゴール　（３）パーラ　（４）デリー　（５）トルコ
（６）奴隷王朝　（７）1206　（８）アイバク　（９）ハルジー　(10）トゥグルク
(11）イブン＝バトゥータ　(12）サイイド　(13）ロディー　(14）アフガン系
(15）デリー＝スルタン朝　(16）スーフィズム　(17）バクティ信仰　(18）カビール
(19）ナーナク　(20）シク教　(21）バーブル　(22）カイバル峠　(23）パーニーパット
(24）ロディー　(25）1526　(26）1858　(27）ペルシャ　(28）サファヴィー
(29）アクバル　(30）ジズヤ　(31）アグラ　(32）マンサブダール制
(33）シャー＝ジャハーン　(34）アグラ　(35）タージ＝マハル

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第６代 (36)〔　　〕は版図をデカン高原まで拡げたうえで (37)〔　　〕を復活させたので異教徒の反発を招き，(38)〔　　〕地方の (39)〔　　〕教徒，デリー南西の**ラージプート族**，デカン高原の (40)〔　　〕((41)〔　　〕が建国）との対決を余儀（よぎ）なくされた。

この第５，６代皇帝の時期にイギリスは (42)〔　　〕（現チェンナイ），(43)〔　　〕（現ムンバイ），(44)〔　　〕（現コルカタ）に，フランスは (45)〔　　〕と (46)〔　　〕に拠点を築いた。イギリスはガンジス川河口の (47)〔　　〕地方で，(48)〔　　〕年の (49)〔　　〕の戦いでフランスに勝ち優位に立った。ベンガル知事は (50)〔　　〕。伝統的な地主（ザミンダール）には徴税権を与えるのが (51)〔　　〕。マドラス付近で耕作農民（ライヤット）から個別に徴税したのが (52)〔　　〕。イギリスが勢力範囲を拡大したので，**パンジャーブ地方のシク教国**，**デリー南西のマラータ王国**，**デカン高原のマイソール王国**とそれぞれ戦争になりいずれもイギリスに屈した。

ちなみに，ムガル帝国の公用語は (53)〔　　〕。しかし (54)〔　　〕（ヒンディー語＋ペルシア語＋アラビア語）も成立した。

【シパーヒー（セポイ）の乱】イギリスの東インド会社の傭兵が宗教的理由から反乱を起こした。(55)〔　　〕と見なし，それぞれの脂を銃に使用することに抵抗した (56)〔　　〕だ。反乱軍がムガル皇帝を擁立したので，イギリスは反乱鎮圧と共にムガル帝国を滅ぼした。東インド会社も反乱の責任から廃止になり，イギリスによるインドの直接支配が始まった（(57)〔　　〕年)。1857 ～ 59 年の全民族的反英抵抗運動を (58)〔　　〕という。北インドの小国の王妃で戦死した英雄が (59)〔　　〕だ。

14 ～ 17 世紀に南インドを支配したヒンドゥー教国が (60)〔　　〕。(61)〔　　〕年にポルトガル人 (62)〔　　〕がマラバル海岸の (63)〔　　〕に来た。ポルトガルは (64)〔　　〕年に (65)〔　　〕に総督府を置き (66)〔　　〕が総督となった。

中国絵画が元代にイスラーム世界に伝わりイランに (67)〔　　〕（細密画（さいみつが））が成立。これがムガル帝国（第２次ティムール帝国）で (68)〔　　〕となるが，ムガル絵画の影響で，ヒンドゥー教神話を画題にした (69)〔　　〕が成立した。

解答

(36) アウラングゼーブ　(37) ジズヤ　(38) パンジャーブ　(39) シク
(40) マラーター王国　(41) シヴァージー　(42) マドラス　(43) ボンベイ
(44) カルカッタ　(45) ポンディシェリ　(46) シャンデルナゴル　(47) ベンガル
(48) 1757　(49) プラッシー　(50) クライブ　(51) ザミンダーリー制
(52) ライヤットワーリー制　(53) ペルシア語　(54) ウルドゥー語
(55) ヒンドゥー教徒は牛を神聖，イスラーム教徒は豚を不浄（ふじょう）　(56) シパーヒーの乱
(57) 1858　(58) インド大反乱　(59) ラクシュミー＝バーイ　(60) ヴィジャヤナガル王国
(61) 1498　(62) ヴァスコ＝ダ＝ガマ　(63) カリカット　(64) 1510　(65) ゴア
(66) アルブケルケ　(67) ミニアチュール　(68) ムガル絵画　(69) ラージプート絵画

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【イギリスのインド支配】フランスのインド総督で 1754 年に本国に召還されたのが (70)〔　　〕。イギリスは (71)〔　　〕年の (72)〔　　〕の戦いでインド人傭兵 (73)〔　　〕が初めて登場，1758 年にはベンガル知事が設置され， (74)〔　　〕が初代知事になる。カナダのビーバーの毛皮をめぐる英仏間の (75)〔　　〕の (76)〔　　〕年の (77)〔　　〕条約でフランスにたいする優位が確定した。また 1764 年の (78)〔　　〕の戦いでベンガル太守とムガル帝国の連合軍を破った。1744 年から 1763 年までの英仏がそれぞれ南インドの現地政権と結び合っておこなった戦いを (79)〔　　〕戦争という。1773 年のインド統治法でベンガル総督が置かれ (80)〔　　〕が初代の総督となった。1784 年の小ピットのインド法で本国政府はベンガル総督の立場を強化し他地域への監督権を付与した。1793 年にはベンガルで (81)〔　　〕制が実施され，伝統的領主層＝ザミンダールに近代的土地所有権を与えたが，永代固定租税の権限を与えられたので高利貸しとなって農民を困窮化させた。また，1806 年からマドラスでは，個別農民＝ライヤットに土地所有権を認めて東インド会社が個々の農民から直接租税を徴収する (82)〔　　〕制が実施された。東インド会社内では商品作物が栽培され安価な労働力を使ったプランテーション経営がなされた。作物としてはケシ＝専売の (83)〔　　〕の原料，藍，のち綿花など。

イギリス本国では (84)〔　　〕が 1779 年に発明した (85)〔　　〕でインド綿糸より細い糸が紡ぐことができるようになると細糸薄地布の綿織物が，1820 年代にはインドに流入するようになり，アジア三角貿易に完全に組み込まれ，カール＝マルクスは「インド大陸は失業した木綿職人の白骨で白く染まった」と述べた。1767 年から断続的に 1799 年まで (86)〔　　〕で南インドの西海岸を制圧，1775 年から断続的に (87)〔　　〕でデカン高原西部の王位継承に介入，1805 年からはデリーのムガル皇帝までも保護下に収める。イギリスは 1815 年のナポレオン戦争のウィーン議定書で (88)〔　　〕からセイロンを奪い，1816 年には (89)〔　　〕のグルカ王国を征服，1845 年から 1849 年までの断続的なシク戦争でパンジャーブ地方を併合した。その後， (90)〔　　〕に進出し 1838 年から 43 年の第１回戦争では惨敗したが，1878 年から 80 年の第 2 回戦争で苦戦の末，保護国化した。そのときの両国の交渉で，パシュトゥン人居住地域を分断する「デュランド＝ライン」が定められた。そのようなわけで現在パシュトゥン人が英領であったパキスタンに 2100 万，アフガニスタンに 1000 万人前後住んでいるのだ。このパシュトゥン人が 2001 年にアメリカ，ブッシュ政権により崩壊させられた「タリバン」政権の主体である。ちなみにアフガニスタンは第３次アフガン戦争の結果 1919 年にイギリスから独立した。

解答

(70) デュプレクス　(71) 1757　(72) プラッシー　(73) シパーヒー＝セポイ
(74) クライブ　(75) フレンチインディアン戦争　(76) 1763　(77) パリ
(78) ブクサール　(79) カーナティック　(80) ヘースティングズ
(81) ザミンダーリー　(82) ライヤットワーリー　(83) アヘン　(84) クロンプトン
(85) ミュール紡績機　(86) マイソール戦争　(87) マラータ戦争　(88) オランダ
(89) ネパール　(90) アフガニスタン

1834 年にすでに東インド会社は貿易独占権を停止していたが，それ以後は統治機関となっていた。1856 年にはネパールの南アワドを併合し東インド会社によるインド統一が完成した。そして東インド会社は地方王侯と個別に条約，多少の権限を与え (91)〔　　〕とした。

1857 ～ 59 年に東インド会社に傭兵が起こした反乱が (92)〔　　〕の乱で，これは薬包に豚牛の油が使われたという噂に (93)〔　　〕が反発したのである。東インド会社は反乱の責任から解散，インドは本国の直轄地となる。(1858) シパーヒー反乱軍によりムガル皇帝バハーデゥル＝シャーが擁立されたので，ムガル帝国はイギリスにより滅ぼされた。(1858) 敗れた反乱軍の指導者のひとりで今でも民族の英雄として慕われているのが小王国の王妃だった (94)〔　　〕である。

1877 年には保守党 (95)〔　　〕内閣のイギリス本国は (96)〔　　〕を王に戴く，英領インド帝国が成立，1886 年には (97)〔　　〕がこれに編入された。

【英領インド帝国 (98)〔　　〕年～ (99)〔　　〕年】(100)〔　　〕(1772 ～ 1833) はベンガルのバラモンの家に生まれて，古聖典に支持されない (101)〔　　〕(寡婦殉死) に反対 1829 年には法で禁止された。ブラフマー＝サマージ運動を創始，ヒンドゥー教と近代合理主義の融和を図る宗教団体をつくって，彼の死後社会改革運動を展開した。

ダヤーナント＝サラスヴァティ (1824 ～ 83) は「ヴェーダに帰れ」と唱えヴェーダを全階級に開放しカースト制度撤廃を主張，1875 年にヒンドゥー原理主義のアーリャ＝サマージを結成した。

ラーマクリシュナ (1835 ～ 86) は神秘体験を経て，すべての宗教は密教において一つの真理に通じると主張した。

インド紡績業発祥の地 (102)〔　　〕で (103)〔　　〕年に (104)〔　　〕第一回大会が開催，官吏，地主，商人，知識人が出席，かれらを中心として (105)〔　　〕が誕生した。初期の指導者はインド人初のイギリス下院議員となった (106)〔　　〕や，1883 年にインド国民協議会を結成し 86 年に国民会議派に合流したバルネジーであった。これはイギリスがインド人の政治意識を高めるために組織したもので親英的なものであった。

解答

(91) 藩王　(92) シパーヒー

(93) 豚を不浄とするイスラム教徒と牛を神聖視するヒンドゥー教徒

(94) ラクシュミー＝バーイー　(95) ディズレイリ　(96) ヴィクトリア　(97) ビルマ

(98) 1877　(99) 1947　(100) ラーム＝モーハン＝ローイ　(101) サティー

(102) ボンベイ　(103) 1885　(104) インド国民会議　(105) 国民会議派

(106) ナオロジー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【国民会議派カルカッタ大会】 国民会議派の急進化のきっかけは，(107)〔　　〕年にインド総督カーゾン卿が (108)〔　　〕を出して，イスラーム教徒の多い東ベンガルと西ベンガルを分割する統治政策をとったことだ。(109)〔　　〕における日本の勝利がアジアの民族運動を刺激していた (110)〔　　〕年の国民会議派 (111)〔　　〕大会で急進派指導者 (112)〔　　〕が台頭し，(113)〔　　〕((114)〔　　〕)，(115)〔　　〕((116)〔　　〕)，(117)〔　　〕，(118)〔　　〕の 4 大綱領を掲げた。1911 年にはベンガル分割令は撤回された。

(119)〔　　〕年にはイスラーム教徒は，(120)〔　　〕を結成した。

【第一次世界大戦とインド】1914 年に勃発した第一次世界大戦の時期，綿織物(めんおりもの)やベンガルの (121)〔　　〕産業などの民族資本が台頭した。国民会議派は，南アフリカで人種差別を経験した後インドに帰国した (122)〔　　〕を含めてイギリスの戦争に協力した。しかし，(123)〔　　〕はオスマン = トルコが (124)〔　　〕をとっていることから反英決議 ((125)〔　　〕)，このころからムスリム連盟が急進化し指導者として (126)〔　　〕が登場した。

【イギリスの裏切り】1916 年のライナウ協定で自治要求に関して国民会議派つまりヒンドゥー教徒とムスリム連盟が協力を確認した。1917 年にはイギリスがモンターギュ宣言で戦争協力の代償として戦後インドに責任内閣などの自治権付与を約束した。しかし戦争が終わると (127)〔　　〕年のインド統治法では (128)〔　　〕を発布し，令状なしの逮捕・裁判なしの投獄を可能とする弾圧立法が出された。1919 年にはイギリス官憲(かんけん)によるインド人への発砲事件，(129)〔　　〕が起き多数の死傷者を出した。ノーベル文学賞をとったベンガルの詩人 (130)〔　　〕は「ナイト」の称号を返却した。ガンディーが (131)〔　　〕運動（真理の把握）と呼んだ非暴力の大衆抵抗運動もはじまった。

【1920 年代のインド】1920 年代には非協力決議がなされ，称号返還，政府行事出席拒否，公立学校から子弟の引き上げ，選挙ボイコット，裁判所ボイコット，軍人など海外派遣拒否，外国製品ボイコットなどがおこなわれた。

1928 年にインド統治法改正のためサイモン委員会が訪印したが「サイモン帰れ」運動が起きた。1929 年 6 月イギリスに進歩的な政党，労働党の (132)〔　　〕内閣が誕生（最初は 1924 年），インド自治憲法制定のため (133)〔　　〕を提唱，しかしイギリス保守党は「自治」という言葉の使用を非難した。

解答

（107）1905　（108）ベンガル分割令　（109）日露戦争　（110）1906　（111）カルカッタ
（112）ティラク　（113）スワデーシ　（114）国産品愛用　（115）スワラージ
（116）自治獲得　（117）英貨排斥　（118）民族教育　（119）1906
（120）全インド = ムスリム連盟　（121）ジュート　（122）マハトマ = ガンディー
（123）ムスリム　（124）スルタン = カリフ制　（125）キラーファット運動　（126）ジンナー
（127）1919　（128）ローラット法　（129）アムリットサル事件　（130）タゴール
（131）サティヤーグラハ　（132）マクドナルド　（133）円卓(えんたく)会議

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【国民会議派ラホール大会→塩の行進】(134)〔　　〕年の国民会議派(135)〔　　〕大会で急進派(136)〔　　〕を議長に選出(137)〔　　〕を決議, 円卓会議不参加を決議した。(138)〔　　〕年にはガンディーが塩の専売と塩税に抗議して(139)〔　　〕をおこなった結果，イギリスはガンディーを交渉相手と認め，塩の製造権と政治犯の釈放を認めた。ガンディーはこのような第2次(140)〔　　〕を開始したがムスリムは不参加だった。1930年に(141)〔　　〕で円卓会議が開始し，第2回にはガンディーも参加したが成果はなかった。ガンディーは再び，非暴力不服従運動を開始したがすぐに停止し，ガンディーの関心は不可触民「ハリジャン＝神の子」の運動へと移っていった。1935年の(142)〔　　〕で(143)〔　　〕が決定した。ちなみに(144)〔　　〕は(145)〔　　〕年に英領インド帝国に編入されていた。

【第二次世界大戦とインド】第二次世界大戦についてネルーは反ファシズムの立場からイギリスに協力的，ガンディーは戦後の自治を約束すれば協力，(146)〔　　〕は即時全面不服従運動を提起した。

1939年インドの同意のないままイギリスはインドの参戦を決定。1940年3月全インド＝ムスリム連盟の指導者(147)〔　　〕はラホール大会で(148)〔　　〕の分離独立，イスラーム国家建設を決定。1941年1月，チャンドラ＝ボースは国外に脱出しドイツと協力するためにベルリンへ赴いた。

1941年12月8日の真珠湾攻撃から太平洋戦争開始，同時期のマレー沖海戦から英領マラヤ連邦つまりイギリスとも交戦状態にはいる。1942年2月に(149)〔　　〕が陥落すると日本が組織したチャンドラ＝ボースの(150)〔　　〕がビルマに向けて，ラングーン，マンダレーへと日本軍と共に進軍した。1943年には(151)〔　　〕でチャンドラ＝ボースが自由インド仮政府を樹立した。1944年には日本軍とともにインドへ侵攻したが，(152)〔　　〕の戦いで(153)〔　　〕（ネパール人）のイギリスに敗れた。

インドでは1942年には**国民会議派が「インドから出て行け」決議をして英国即時撤退要求**をした。

【インド独立へ】1945年イギリスにはポツダム会談の最中に成立した(154)〔　　〕党(155)〔　　〕内閣が完全自治を公約した。イギリス労働党は第二次世界大戦中の(156)〔　　〕に基づき「ゆりかごから墓場まで」の社会保障に取り組む政党となっていた。

1946年8月ムスリム連盟は分離独立を要求，ヒンドゥー，イスラーム教徒は流血闘争に突入し50万人が死亡した。断食で抗議したガンディーに感動し，人々が武器を捨てた直後に，宗教融和策に反対した(157)〔　　〕教信者の手でガンディーは暗殺された（48年）。47年2月アトリー内閣はインドからの撤退を表明，最後の総督は(158)〔　　〕であった。6月のマウントバッテン裁定で二つの憲法制定議会，ベンガルとパンジャーブの分割が決定した。7月にはインド統治法をイギリス議会が可決した。

解答

（134）1929　（135）ラホール　（136）ネルー　（137）プールナ＝スワラージ（完全自治）
（138）1930　（139）塩の行進　（140）非暴力不服従運動　（141）ロンドン
（142）新インド統治法　（143）ビルマの分離　（144）ビルマ　（145）1886
（146）チャンドラ＝ボース　（147）ジンナー　（148）パキスタン　（149）シンガポール
（150）インド国民軍　（151）シンガポール　（152）インパール　（153）グルカ兵
（154）労働　（155）アトリー　（156）ベバリッジ報告　（157）ヒンドゥー
（158）マウントバッテン

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1947年8月，インド連邦が(159)〔　　〕首相，(160)〔　　〕大統領で，パキスタンは(161)〔　　〕総督で独立。ネルーは(162)〔　　〕主義で独自路線，パキスタンはSEATO，METOに参加，つまり東南アジアと中東におけるアメリカの反共軍事同盟の要となった。それぞれが憲法を制定して(163)〔　　〕年に政教分離の(164)〔　　〕，(165)〔　　〕年には政教一致の(166)〔　　〕が成立した。

【独立後のインドとパキスタン】(167)〔　　〕と(168)〔　　〕は1954年にフランスがインドに返還，(169)〔　　〕は1961年にインドがポルトガルから強制接収した。

インド＝パキスタンの分離独立に際して藩王国の帰属はそれぞれの判断に委ねられた。(170)〔　　〕の藩王国の帰属問題から(171)〔　　〕年に(172)〔　　〕が勃発，当該(とうがい)の地域（**カシミール）の藩王はヒンドゥー教徒ゆえインドへの帰属を希望，住民はイスラーム教徒であるゆえパキスタンへの帰属を希望**。ちなみにパキスタンはイスラームを全面に出す共和国，インドは政教分離の世俗国家である。(173)〔　　〕年の(174)〔　　〕も(175)〔　　〕問題が争点だった。

(176)〔　　〕年の第3次印パ戦争は(177)〔　　〕の独立問題だ。(178)〔　　〕産業がある東パキスタンが(179)〔　　〕であるのに対し西パキスタンは(180)〔　　〕だ。1971年3月東パキスタンつまり(181)〔　　〕が独立宣言，印パ全面戦争となった。そして12月には東パキスタンがバングラデシュとして独立した。首都は(182)〔　　〕。

1974年にはインドが最初の核実験。(183)〔　　〕年にはインド，パキスタンが相次いで核実験，パキスタンは(184)〔　　〕最初の核保有国となった。1999年には軍事クーデターで(185)〔　　〕政権が誕生した。

1949年12月インドはビルマに次いで2番目に中華人民共和国を承認した。中国は共産党一党独裁，マルクス主義つまり唯物論(ゆいぶつろん)，無神論国家だ。**1950年に人民解放軍がチベットを解放（共産化）**する。そのこと自体は1954年のニューデリーにおける(186)〔　　〕とネルーの会談で確認された。チベットは(187)〔　　〕と(188)〔　　〕による神権支配の地域である。それゆえ，共産化に伴う寺院の破壊，僧侶(そうりょ)への侮辱，土地の共有化に対して，(189)〔　　〕年チベットの(190)〔　　〕で反乱が起こり数百万人が人民解放軍により虐殺され，(191)〔　　〕はインドへ亡命した。彼をインドがかくまったことから中印関係が悪化，1962年には中国軍がインドへ侵攻。インド軍は敗北した。その後英米に接近したので，(192)〔　　〕は後退した。ソ連はインドの立場を支持し(193)〔　　〕を激化させた。1989年にはダライ＝ラマ14世がノーベル賞を受賞。

解答

（159）<u>ネルー</u>　（160）<u>プラサド</u>　（161）<u>ジンナー</u>　（162）<u>非同盟</u>　（163）<u>1950</u>
（164）<u>インド共和国</u>　（165）<u>1956</u>　（166）<u>パキスタン＝イスラーム共和国</u>
（167）<u>シャンデルナゴル</u>　（168）<u>ポンディシェリ</u>　（169）<u>ゴア</u>　（170）<u>カシミール</u>
（171）<u>1947</u>　（172）<u>第1次印パ戦争</u>　（173）<u>1965</u>　（174）<u>第2次印パ戦争</u>
（175）<u>カシミール</u>　（176）<u>1971</u>　（177）<u>バングラデシュ</u>　（178）<u>ジュート</u>
（179）<u>ベンガル語</u>　（180）<u>ウルドゥー語</u>　（181）<u>バングラデシュ</u>　（182）<u>ダッカ</u>
（183）<u>1998</u>　（184）<u>イスラーム圏</u>　（185）<u>ムシャラク</u>　（186）<u>周恩来</u>
（187）<u>ダライ＝ラマ</u>　（188）<u>パンチェン＝ラマ</u>　（189）<u>1959</u>　（190）<u>ラサ</u>
（191）<u>ダライ＝ラマ14世</u>　（192）<u>非同盟主義</u>　（193）<u>中ソ論争</u>

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1950年のインド憲法においては共和政，政教分離原則，成人男女普通選挙，カースト差別禁止，不可触賤民制禁止であった。憲法起草委員会委員長は(194)〔　　〕で彼は1920年代から不可触民撤廃運動に携わり，1956年の死去の直前にはカースト制度の起源はヒンドゥーにありとして仏教に帰依してネオ＝ブッディスト（新仏教）運動を展開した。

1964年ネルーが死去，シャストリが首相，1966年からはネルーの娘(195)〔　　〕が首相。長老たちとの対立により1975年非常事態宣言ののちガンディーの独裁に。1971年には(196)〔　　〕＝インド平和友好協力条約，そして(197)〔　　〕年には核実験，しかし1984年にシク教徒により暗殺された。長男(198)〔　　〕が首相に，彼も1991年にはタミル人により暗殺された。

1989年ベルリンの壁が崩壊91年ソ連邦解体した。これにより唯物論と人間による計画主義と，設計主義の限界が露呈し，世界的に宗教勢力が台頭することになる。1993年からヒンドゥー原理主義が高まりデリーのモスクを破壊，1億1千万のイスラーム教徒への対決姿勢が強まり，インドは建国以来の政教分離の原則への挑戦が始まった。1996年の選挙で(199)〔　　〕は歴史的敗北を喫し，ヒンドゥー至上主義の(200)〔　　〕が第一党でバジパイ首相が政権を奪取（だっしゅ）した。国民会議派の腐敗への反発や民主主義が定着するなか，上位カーストの危機意識，グローバリズムの進展による貧富の差の拡大などが政権交代の背景にある。しかし2004年には，国民会議派が8年ぶりに政権を奪回した。

【スリランカ】1948年にセイロンが(201)〔　　〕より独立。1960年には(202)〔　　〕夫人が世界初の女性首相。1972年にスリランカ共和国，1978年にはスリランカ民主社会主義共和国として英連邦を脱退した。国政を握る多数派82％は，その昔のマウリヤ朝の(203)〔　　〕の王族マヒンダ以来のアーリア人である(204)〔　　〕（(205)〔　　〕）で(206)〔　　〕。少数派9％は(207)〔　　〕（(208)〔　　〕）は(209)〔　　〕教徒。イギリスがタミル人をセイロン島を茶のプランテーションにするために送り込んだのだ。

近年この両者が対立，後者のテロ組織が「(210)〔　　〕」である。テロの犠牲者の統計は6万5千人にのぼる。2006年「解放のトラ」の議長が独立を宣言し武装闘争が激化したが，政府軍の攻撃により2009年に敗北を宣言した。

解答

(194) アンベードカル　(195) インディラ＝ガンディー　(196) ソ連　(197) 1974
(198) ラジブ＝ガンディー　(199) 国民会議派　(200) インド人民党　(201) イギリス
(202) バンダラナイケ　(203) アショーカ王　(204) シンハラ人
(205) インド＝ヨーロッパ語族　(206) 上座部仏教徒　(207) タミル人
(208) ドラヴィダ語族　(209) ヒンドゥー　(210) タミル＝イーラム解放のトラ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第26講　テスト①

1　インドのイスラーム化のきっかけとなった10世紀成立のアフガニスタンのイスラーム王朝は。

①　ガズニー朝

②　ゴール朝

③　サイイド朝

④　奴隷王朝

2　デリー＝スルタン朝最後の王朝は。

①　トゥグルク朝

②　ロディー朝

③　ハルジー朝

④　ザンギー朝

3　ジズヤを廃止したムガル皇帝は。

①　バーブル

②　アクバル

③　シャー＝ジャハン

④　アウラングゼーブ

4　タージ・マハルを建立したムガル皇帝は。

①　バーブル

②　アクバル

③　シャー＝ジャハン

④　アウラングゼーブ

5　ジズヤを復活させたムガル皇帝は。

①　バーブル

②　アクバル

③　シャー＝ジャハン

④　アウラングゼーブ

6　ムガル帝国の公用語は。

①　英語

②　ウルドゥー語

③　ペルシャ語

④　アラビア語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 26 講　テスト①解答

1　①　　2　②　　3　②　　4　③　　5　④　　6　③

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2

【ポルトガル】ポルトガルの (1)〔　　〕は (2)〔　　〕年にアフリカ西北端，ジブラルタル海峡の南岸の港市 (3)〔　　〕を攻略した。また彼が派遣した探検家が 1445 年にアフリカ大陸の最西端，(4)〔　　〕を発見した。

(5)〔　　〕世の命でポルトガルの航海者 (6)〔　　〕が出発しアフリカ南端を発見（1488 年），ジョアン２世が「(7)〔　　〕」と呼んだ。

ポルトガルの航海者 (8)〔　　〕はリスボンを出航し，喜望峰を回り，アフリカ東岸のイスラーム圏にそって北上し，(9)〔　　〕で水先案内人を得てインドに直航し (10)〔　　〕年 (11)〔　　〕に到達した。

【コロンブス】イタリア・フィレンツェの天文・地理学者 (12)〔　　〕の**地球球体説**がコロンブスの航路選択に影響したといわれる。

(13)〔　　〕は，レコンキスタ運動の完成（ナスル朝グラナダ王国のアルハンブラ宮殿陥落）を目撃した後，スペイン女王 (14)〔　　〕の後援を得て**パロス**を出航し 72 日のち**現バハマ諸島**に到着した。((15)〔　　〕年）

一行が最初に上陸した島は (16)〔　　〕と命名され，コロンブスの誤認によりカリブ海東部は**西インド諸島**と呼ばれるようになった。

【その他】イタリアの (17)〔　　〕は英王ヘンリ７世の後援で，現在のニューファンドランド・北アメリカ沿岸を探検した。

ブラジルはジョアン２世の時の (18)〔　　〕条約（(19)〔　　〕年）で認められていたが，ポルトガルの提督 (20)〔　　〕の漂着により中南米唯一のポルトガル領となった。また，スペインの探検家 (21)〔　　〕はパナマ地峡を横断した。

フィレンツェの (22)〔　　〕は４回にわたって新大陸を探検，「アメリカ」という名称のもととなった。

ポルトガル人の (23)〔　　〕はスペインのカルロス１世の援助で**セビーリャ**を出航，南アメリカ南端から太平洋を横断，(24)〔　　〕年現**フィリピン諸島**に到達したがマクタン島の首長に殺された。

解答

（１）エンリケ航海王子　（２）1415　（３）セウタ　（４）ヴェルデ岬　（５）ジョアン２
（６）バルトロメウ＝ディアス　（７）喜望峰（きぼうほう）　（８）ヴァスコ＝ダ＝ガマ　（９）マリンディ
（10）1498　（11）カリカット　（12）トスカネリ　（13）コロンブス　（14）イサベル
（15）1492　（16）サンサルバドル　（17）カボット父子　（18）トルデシリャス
（19）1494　（20）カブラル　（21）バルボア　（22）アメリゴ・ヴェスプッチ
（23）マガリャンイス（マゼラン）　（24）1521

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 26 講　テスト②

1　ポルトガルがアフリカ西岸（ヴェルデ岬）に到達したのは誰の時代か。
①　エンリケ航海王子
②　ジョアン２世
③　カルロス１世
④　フェリペ２世

2　ポルトガルがアフリカ南岸（喜望峰）に到達したのは誰の時代か。
①　エンリケ航海王子
②　ジョアン２世
③　カルロス１世
④　フェリペ２世

3　地球球体説を唱えたのは。
①　バルボア
②　コルテス
③　トスカネリ
④　カブラル

4　コロンブスの新大陸到達の年に起きたことは。
①　ビザンツ帝国滅亡
②　百年戦争終結
③　グラナダ陥落
④　アッコン陥落

5　1493 年に教皇アレクサンデル６世が定めた分界線の翌年の条約は。
①　サラゴサ条約
②　セーブル条約
③　カトーカンブレジ条約
④　トルデシリャス条約

第 26 講　テスト②解答

1　①　　2　②　　3　③　　4　③　　5　④

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3

古代アメリカ文明の特色は青銅器文明であること，鉄器・車・牛・馬車などはなかったこと。農耕文化で，(1)〔　　〕・(2)〔　　〕・(3)〔　　〕・(4)〔　　〕などが作物。

【メキシコ文明】メキシコ中心のメソ＝アメリカ（中米）文明は，紀元前の先進文明が(5)〔　　〕文明。その後の(6)〔　　〕文明は「太陽のピラミッド・月のピラミッド」で有名。ずっと後代にメキシコシティつまり(7)〔　　〕にアステカ文明が栄える。スペイン人(8)〔　　〕により(9)〔　　〕年に滅んだ。(10)〔　　〕文明はメキシコの(11)〔　　〕半島から(12)〔　　〕にかけての文明で，ティカルとチチェンイツァが中心。マヤ文明はスペイン人に滅ぼされた。

【アンデス文明】南米アンデス文明の先進文明は(13)〔　　〕。13世紀成立のインカ帝国の都は(14)〔　　〕。高度な石造建築の技術で(15)〔　　〕や要塞を建設し，太陽を崇拝した。(16)〔　　〕を作らず(17)〔　　〕（結縄(けつじょう)）で数量を表した。**鉄器・車輪**や，馬などの大型の家畜は使用しなかった。インカ帝国最後の王**アタワルパ**は(18)〔　　〕年スペイン人(19)〔　　〕に騙(だま)されて殺され征服された。

(20)〔　　〕年に(21)〔　　〕の(22)〔　　〕が開削されるとインディオが奴隷として酷使(こくし)された。植民者が国から**先住民の教化と保護を条件に土地・住民の統治を委託され賦役労働を課す**のが(23)〔　　〕制。植民地機構としては管区統治の中枢(ちゅうすう)が(24)〔　　〕。17世紀からは(25)〔　　〕という大農園制に移行した。

スペインの聖職者(26)〔　　〕は1542年に『インディアスの破壊についての簡潔な報告』で虐待(ぎゃくたい)を非難，インディオからアフリカ人に労働力が変化した。植民地生まれの白人は(27)〔　　〕。インディオとの混血層が(28)〔　　〕。黒人との混血が(29)〔　　〕。

解答

（1）トウモロコシ　（2）ジャガイモ　（3）タバコ　（4）トマト　（5）オルメカ
（6）テオティワカン　（7）テノチティトラン　（8）コルテス　（9）1521　（10）マヤ
（11）ユカタン　（12）グアテマラ　（13）チャビン文明　（14）クスコ　（15）神殿
（16）文字　（17）キープ　（18）1533　（19）ピサロ　（20）1545　（21）ボリビア
（22）ポトシ銀山　（23）エンコミエンダ　（24）アウディエンシア　（25）アシエンダ
（26）ラス＝カサス　（27）クリオーリョ　（28）メスチーソ　（29）ムラート

第 26 講　テスト③

1　太陽のピラミッド・月のピラミッドがあるのは。

①　マチュピチュ

②　チチェンイツァ

③　テオティワカン

④　テノチティトラン

2　ポトシ銀山があるのは現在のどの国か。

①　ペルー

②　エクアドル

③　ボリビア

④　チリ

3　植民者が先住民のキリスト教化を条件に委託される制度は。

①　アシエンダ

②　アシエント

③　アウディエンシア

④　エンコミエンダ

4　大航海時代の新航路開拓がもたらしたヨーロッパの貿易構造の変化は。

①　商業革命

②　価格革命

③　生活革命

④　産業革命

5　15 ～ 16 世紀以降，エルベ川以東のドイツで発展した農業形態は。

①　ブルシェンシャフト

②　シュトルム・ウント・ドランク

③　グーツヘルシャフト

④　タンジマート

第 26 講　テスト③解答

1　③　　2　③　　3　④　　4　①　　5　③

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4

【カンボジア】カンボジアはジュネーブ協定で独立後，(1)〔　　〕国王が統治した。**ベトナム戦争中の1970年に親米の**(2)〔　　〕政権ができたが，アメリカのインドシナ撤退によりベトナム戦争後の1976年に(3)〔　　〕となった。この連合政権は結局，シハヌーク派を追放した(4)〔　　〕((5)〔　　〕つまり(6)〔　　〕）独裁となり200万人前後の虐殺をもたらした。ポル＝ポトは毛沢東型の農村共産主義社会実現のために都市住民に農村への移住を強制し，拒否する者やブルジョワ的な者，ベトナム系住民を粛清した。

1978年にベトナムが侵攻しポル＝ポト派をジャングルに追い，(7)〔　　〕による**親ベトナム政権**となった。しかしこれが**カンボジア内戦**の幕開けとなる。ヘン＝サムリン政権はアメリカが支える(8)〔　　〕(旧ロン＝ノル派)，中国が支える(9)〔　　〕と(10)〔　　〕との内戦に突入した。**米ソ冷戦と中ソ論争の代理戦争**である。

(11)〔　　〕年カンボジア和平の枠組みができ日本は初めて(12)〔　　〕に参加した。ヘン＝サムリン派の(13)〔　　〕の長期政権が続いている。

解答

（1）シハヌーク　（2）ロン＝ノル　（3）民主カンボジア　（4）クメール＝ルージュ
（5）赤色クメール　（6）ポル＝ポト派　（7）ヘン＝サムリン　（8）ソン＝サン派
（9）シハヌーク派　（10）ポル＝ポト派　（11）1991　（12）PKO（国連の平和維持活動）
（13）フン＝セン

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5

まずは，旧ユーゴスラヴィアは一つの(1)〔　　〕，二つの(2)〔　　〕(**ラテン・キリル**)，三つの(3)〔　　〕(**カトリック・ギリシア正教・イスラーム**)，四つの(4)〔　　〕(**スロヴェニア・クロアチア・セルビア・マケドニア**)，五つの(5)〔　　〕(これに**モンテネグロ族**)，六つの(6)〔　　〕(これに**ボスニア＝ヘルツェゴビナ共和国**)。

【第一次世界大戦後】第一次世界大戦でオーストリア＝ハプスブルク家とオスマン＝トルコが敗北し(7)〔　　〕(1918年）が建国された。これが1929年にセルビア人主導の(8)〔　　〕(南スラブ族の国）と改称された。が，クロアチア人は不満だ。

これに乗じたのがバチカン（カトリック教会）とヒトラー（ナチス＝ドイツ)。1933年に政権に就いたヒトラーは教皇ピウス11世と**政教条約**を結ぶ。1939年に第二次世界大戦が勃発，1941年ドイツはバルカン半島に侵攻する時に**クロアチア人と組んで**セルビア人35万人を虐殺した。これに対し(9)〔　　〕を繰り広げたのが(10)〔　　〕だった。

【第二次世界大戦後】終戦とともに発足したユーゴスラヴィア連邦人民共和国はティトーのカリスマ性ゆえにまとまっていた人工国家だった。共産主義者のティトーではあったがソ連のユーゴスラヴィア駐留を拒否し(11)〔　　〕を除名される（1948年)。(12)〔　　〕年には首都(13)〔　　〕で(14)〔　　〕を開いた。スカルノ・ナセル・ネルーらに呼びかけ実現した。そのティトーは1980年に死去。

ティトーが死んでもユーゴスラヴィアが解体しなかったのは冷戦という秩序があったからだ。

【冷戦終結後】しかし(15)〔　　〕年冷戦終了，(16)〔　　〕年ソ連崩壊。ティトー・共産主義という接着剤のはげたユーゴスラヴィアの解体が始まった。

まずスロヴェニアとマケドニアが連邦から離脱。次に(17)〔　　〕が離脱する！と，いう時にユーゴスラヴィア内戦が始まった。

(18)〔　　〕の(19)〔　　〕大統領は少数派となっている同胞を助け国内の人気を維持する政策だった。

解答

（１）連邦　（２）文字　（３）宗教　（４）言語　（５）民族　（６）共和国

（７）セルブ＝クロアート＝スロヴェーン王国　（８）ユーゴスラヴィア

（９）パルチザン闘争　(10）ティトー　(11）コミンフォルム　(12）1961

(13）ベオグラード　(14）非同盟諸国首脳会議　(15）1989　(16）1991

(17）クロアチア　(18）セルビア　(19）ミロシェヴィッチ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

セルビアとクロアチアの戦争を経てクロアチアが独立。1992年に連邦は崩壊した。次に(20)〔　　〕が独立する時にミロシェヴィッチは(21)〔　　〕人と(22)〔　　〕人を(23)〔　　〕した。ボスニア＝ヘルツェゴビナの民族宗教分布は40％がイスラーム教徒のムスリム人，32％がギリシア正教徒のセルビア人，18％がカトリック教徒のクロアチア人。この比率の暗記は必須！ 国連が介入し1995年にボスニア紛争は終結した。

次にミロシェヴィッチはセルビア国内(24)〔　　〕自治州の多数を占める(25)〔　　〕人((26)〔　　〕教徒）に対する武装闘争を展開した。1989年はコソヴォの戦い600周年だった。(27)〔　　〕年6月28日，オスマン＝トルコのスルタン，(28)〔　　〕世に中世セルビア王国の首都コソヴォが奪われた。その屈辱の600周年をセルビアはナショナリズム高揚に利用した。ロシアの(29)〔　　〕政権がセルビアを支持したのに対し，英米((30)〔　　〕と(31)〔　　〕）主導のNATO軍は(32)〔　　〕年に(33)〔　　〕を空爆しセルビアを撤退させた。

2003年に新ユーゴスラビア連邦が解体しセルビア＝モンテネグロ成立。2006年には(34)〔　　〕がセルビアと分離。2008年に(35)〔　　〕がセルビアから独立し，結局ユーゴスラビアは7つに解体した。

ミロシェヴィッチは有罪判決の出た(36)〔　　〕で審理中に死亡した（2006年）。

中世セルビア王国の(37)〔　　〕はウロシュ2世ともいう。1349年に『ドゥシャン法典』を発布，中世セルビア王国領土最大の全盛期を築きあげた。死後，王国は急速に衰退した。大セルビア主義者の間では大いに評価されている人物だ。

解答

(20) ボスニア＝ヘルツェゴビナ　(21) ムスリム　(22) クロアチア　(23) 民族浄化（じょうか）

(24) コソヴォ　(25) アルバニア　(26) イスラーム　(27) 1389　(28) ムラト1

(29) エリツィン　(30) ブレア　(31) クリントン　(32) 1999　(33) ベオグラード

(34) モンテネグロ　(35) コソヴォ　(36) 旧ユーゴ国際戦犯法廷

(37) ステファン＝ドゥシャン

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

6

【戦後アフリカ史】第二次世界大戦終結時の独立国は，第一次世界大戦勃発時から独立していたエチオピアとリベリアに，(1)〔　　〕と (2)〔　　〕を加え４つ。

(3)〔　　〕は 1951 年に連合王国として英仏から独立。(4)〔　　〕年のクーデターで共和国となり (5)〔　　〕が指導者。が，2011 年の「アラブの春」で処刑される。

(6)〔　　〕年には (7)〔　　〕が英・エジプトから，(8)〔　　〕が仏・スペインから，(9)〔　　〕が仏から独立。

(10)〔　　〕年には，(11)〔　　〕がアフリカ最初の黒人独立国家として英より独立，(12)〔　　〕が指導者。

(13)〔　　〕年には，(14)〔　　〕が仏より独立，(15)〔　　〕が指導者。

(16)〔　　〕年は**「アフリカの年」**といわれ，17 ヵ国が独立，その大半は (17)〔　　〕政権の (18)〔　　〕からの独立だ。

(19)〔　　〕年 (20)〔　　〕が (21)〔　　〕の指導で (22)〔　　〕から独立する時にカタンガ州の資源を巡りベルギー・アメリカが介入し**コンゴ動乱**（1960 ～ 1965 年）となった。結果 (23)〔　　〕親米独裁政権となりザイール（1971 年）に次いでコンゴ民主共和国（1997 年）と改称された。ナイジェリアはイギリスから独立した。その際に起きたのが (24)〔　　〕だ。

1963 年には (25)〔　　〕（OAU）がアフリカ独立諸国首脳会議で結成された。

南アフリカ共和国は (26)〔　　〕年にイギリス連邦から分離独立した。アパルトヘイトは (27)〔　　〕大統領の (28)〔　　〕年に法的に撤廃，アフリカ民族会議（ANC）議長 (29)〔　　〕が釈放され大統領になった (30)〔　　〕年に完全撤廃された。

アルジェリアはベン＝ベラが指導し (31)〔　　〕年の (32)〔　　〕でド＝ゴールのフランスから独立した。

アンゴラ･モザンビークはポルトガルの (33)〔　　〕政権が崩壊ししばらくたった (34)〔　　〕年に，東南アジアの (35)〔　　〕と共に独立した。

1980 年には南ローデシアが (36)〔　　〕としてイギリスから独立。

1990 年にはナミビアが (37)〔　　〕から独立。

(38)〔　　〕年から (39)〔　　〕で内戦となった。(40)〔　　〕統治下で優遇されていた少数派の牧畜系ツチ族に対し独立後に農耕系のフツ族が復讐し 100 日で 100 万人が虐殺された。

解答

（1）エジプト　（2）南アフリカ　（3）リビア　（4）1969　（5）カダフィ大佐
（6）1956　（7）スーダン　（8）モロッコ　（9）チュニジア　(10) 1957
(11) ガーナ　(12) エンクルマ　(13) 1958　(14) ギニア　(15) セク＝トゥーレ
(16) 1960　(17) ド＝ゴール　(18) フランス　(19) 1960　(20) コンゴ
(21) ルムンバ　(22) ベルギー　(23) モブツ　(24) ビアフラ戦争
(25) アフリカ統一機構　(26) 1961　(27) デクラーク　(28) 1991　(29) マンデラ
(30) 1994　(31) 1962　(32) エヴィアン協定　(33) サラザール　(34) 1975
(35) 東ティモール　(36) ジンバブエ　(37) 南アフリカ　(38) 1994　(39) ルワンダ
(40) ベルギー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。